


2019年度 ドコモ市民活動団体助成事業 活動成果報告書

2020/9/30

団体名	NPO法人 CAPみしま・大阪	活動タイトル	児童養護施設周辺幼稚園、小中学高校、高等支援学校のCAP実施
望ましい社会状況および団体のビジョン（社会的役割と活動基盤）		■ 活動風景	
● 地域の望ましい社会状況（ビジョン）	・活動拠点である高槻市は障がいに対する理解があり、障がい者に優しい都市と言われるが、そのことを大切に、さらに推し進めるためにCAPプログラムの中でも「障がいのある子どもへのCAPプログラム」（スペシャルニーズプログラム）にも力を入れ、障がいのある子ども、障がいのない子どもも安心して、自信をもって、自由に生きることのできる地域の実現をめざす。	2019年12月、支援学校教職員ワーク（スペシャルニーズプログラム）	
● 団体の社会的役割（ミッション）	・子どもの人権に関わる団体として地域に広く認知され、地域の子育て支援課など関係機関ともつながり、専門的な会議のメンバーになり、子どもの人権を守るために積極的に活動するとともに、CAPプログラムを提供することで具体的に子どもの権利について伝えていく。		
● 団体の活動基盤	・自分たちで、CAPの全てのプログラムが実施できるようにする。 J-CAPTAからトレーナーを招聘して新しいスペシャリストを育てるとともに、研修等も開催しグループ内のスペシャリストのスキルを上げる。 ・地域の子育て支援課、児童相談所など虐待を発見した場合に繋ぐ機関としっかり繋がる。 ・依頼先が自己資金でCAPを実施してくれることを目指し、また助成金申請や行政委託をめざす。 会費収入を増やし、賛同者から寄付ももらえるようにする。		
■ 活動報告		■ 1年間の目標に対する達成状況(まとめ)	
<p>今年度の3つの活動目標は次の通りです。</p> <p>① 児童養護施設の子どもが通う中学校での子どもワークショップ（以下WSと表記）実施 全校でのCAP実施となり、1年生3クラス84名、2年生3クラス101名、3年生2クラス68名、の計8クラス、253名に子どもWSを実施できました。 子どもには「安心して生きる権利、自信を持って生きる権利、自由に選んで生きる権利」があることを理解してもらおうことが大きな目的です。 こどもWSの事後アンケートで98%の子どもがCAPは役にたつと答え、82%の子どもが自分たちには「安心、自信、自由」の権利があると答えました。暴力防止プログラムの実施により人権啓発、暴力防止の意義が認められたものと思われる。</p> <p>② 「障がいのある子どもへのCAPプログラム」（スペシャルニーズプログラム、以下SNPと表記）の実施 支援学校教職員ワークショップでSNPを紹介しました。 予想以上の反響があり、直ちに子どもWS実施に繋がり、高等部3クラスでの実施となりました。 ③ 人材育成事業としてグループ内研修（CAPスペシャリスト養成研修実践編）の実施し、新たに5名、CAPの実践者が誕生しました。 また研修に招いた地域の子育て支援課職員の講義では、地域の実情や、支援の仕組みを知り、これからの連携の可能性を感じました。</p>		<p>① 児童養護施設の子どもが通う中学校では全校でCAPを実施して頂き、施設の子どもたちは学校でもCAPを受けることができました。学校では9割以上の生徒（当日欠席の生徒以外全員）が参加し、8割以上の子どもがCAPは効果があると見え、安心・自信・自由の心の権利があることを理解してもらえた。 保護者ワークショップは、地域の講演会としての実施となり、地域でCAPの考えを共有できました。</p> <p>② 活動地域である高槻市は、障がい者に優しい都市と言われる、その思いをさらに推し進めるためSNPに取り組みました。まず、支援学校で実施する「教職員ワークショップ」でSNPを紹介したいと思い、J-CAPTAトレーナーを招聘して実施したところ、予想以上の反響をいただき、支援学校高等部で子どもワークショップを実施できました。SNPを受講後、子どもたちの中には、「初めていやと言えた」、「過去の被害体験を初めて信頼するおとなに話すことができた」等、大きな変化をもたらしました。</p> <p>③ 養成研修はコロナ禍のため2度も開催を延期せざるを得なくなりましたが、10名の受講資格者の5割、5名に受講してもらえました。 広い会場を準備し、検温、手指消毒、換気、黙食等感染対策を徹底し、体調不良者一人も出さず、終了できました。</p>	
■ 事業を通じて得られたノウハウ		■ 望ましい社会状況を達成するための課題	
<p>新しい実施校を獲得する方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・メンバーが持つ人的な繋がりをもちに訪問校を選択する。 ・CAPプログラムを5分または10分程度で説明できるように入念に資料を準備する。CAPの効果や実践の広がりなども説明にいれる。 ・要点を簡潔に説明したリーフレットや記念誌など、相手方の印象に残りやすいものを準備する。 <p>教職員ワーク、保護者ワークを実施に繋ぐ方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多忙な教職員に参加してもらえるように夏季休暇、冬期休暇を利用して教職員研修としてワークショップを行う。 ・コロナ対策の為、ワークショップの実施を少人数に分け、複数回開催する。 ・コロナ禍で学校内で実施が困難な場合、校外の施設での開催など選択肢を準備する。 		<p>人材育成（新しいメンバーを育てる）</p> <p>CAPを実践可能なCAPスペシャリストが5人増えたが、別の仕事に就いているため直ちにはワーク実施メンバーの増加に繋がらず、さらに新たなメンバーの確保が必要。J-CAPTAの講座への派遣も視野に入れた。</p> <p>スキルアップ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・CAPベシックプログラム、CAP就学前プログラム、CAP中学生暴力防止プログラム、SNPの全てのプログラムを自分たちでできるようにする。 ・SNPについては、J-CAPTAトレーナーを招いて実践的な研修を行い、来年度は自力での実践をめざす。 ・就学前プログラム、中学生暴力防止プログラムの実践者も増やしたい。J-CAPTAの講座への新人派遣やJ-CAPTAトレーナーの招聘を考えたい。 <p>・養成研修に子育て総合支援センターより講師を招いて講義を聴けたことは、今後地域の子どもに関わる専門機関として活動していくうえで良い機会となりました。今後連携を強め虐待対応における専門的知識やスキルも上げていきたい。</p>	
		■ 活動成果のアピールポイント（自由記入）	
		この1年間の活動を通じて	SNPを紹介し、実践することで障がいのある子どもたちへの理解を深める地域づくりを達成しました。
		■ 受益者の具体的な変化（自由記入）	
		CAPを受けて初めていやと言えたり、過去の被害体験を信頼できるおとなに話すことができました。これから社会へ出ていくうえでの自信となり、大きな力になります。	